

令和3年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	海外協定校との Webinar・国際共修(COIL)を通常授業に組み込んだ 全員参加型の国際医学教育の試み	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	医学部	
※連携する他学部・機関がある場合は記入		
実施責任者(所属)	田中直樹(医学部)	
取組の目標	医学部のカリキュラムでは、入学後に英語を主体的に学修する機会が少ない。特にコロナ禍で留学が困難となり、協定校の学生と交流する機会も減ってしまった。1年生の通常授業に COIL を組み込むことで、 ・ 全員に COIL 型授業を体験させる ・ 協定校の学生とのディスカッションを通して、達成感や自己効力感、自身のコミュニケーション力、調整力、英語力を把握することを目標とした。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	① 信州大学医学部 1 年生 40 名と、インドネシア ディポネゴロ大学医学部 2 年生 42 名が、各グループ 14 名からなる 6 グループを形成し、「コロナ禍における医学生の変化」について、授業中に 90 分の COIL を行った。 ② 同様に、信州大学医学部 1 年生 80 名と、タイ マヒドン大学医学部 1 年生 16 名が、各グループ 8 名からなる 12 グループを形成し、「コロナ禍における医学生の変化」について、授業中に 90 分の COIL を行った。 ③ グループ毎に COIL で学んだことを PPT にまとめた。 ④ COIL で学んだことを授業時間内での報告会で英語にて発表した。ディポネゴロ大学医学部との報告会では信州大学医学部 1 年生 120 名とディポネゴロ大学医学部 2 年生 250 名が聴講、マヒドン大学医学部との報告会では、信州大学医学部 1 年生 120 名とマヒドン大学医学部 1 年生 30 名が参加した。 ⑤ 学生に事後アンケートをとり、来年度への改善点の把握につとめた。 ⑥ 今回の試みを SU-COIL FD で全学に共有し、信州大学医学部の WEB、信州医学雑誌でも報告した。 ◆ 詳細は添付資料をご参照ください(2021 年 11 月、SU-COIL FD で発表しました)	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望	a. 達成できた	(評価理由) 1 年生に対する全員参加型 COIL を医学部で初めて実施できた。試行錯誤の連続であったが、学生の 9 割以上が「満足」「やや満足」と概ね高評価であった。さらに、医学部の新たな挑戦を学内外にもアピールできたと自負している。

(達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	(今後の展望) 今回の試みを無理なく持続させることが最重要課題と考えている。来年度以降の１年生のシラバスにも、授業時間内のCOILを組み込んでいるので、内容をさらに充実していきたい。来年度は予防医学やSDGsに関する各国の取組、医学生として社会に向けて発信できる事をテーマにCOILを実施する予定である。今後、COILを経験した学生が医学部内で増えていくので、高学年での授業にもCOILを組み入れていきたい。
--------------------------------------	--